

# 月刊 新翔タイムズ

第62号 新翔タイムズ 編集室 発行・熊野新聞社

## 「夢を諦めずに」

### 熊野市の音楽家 矢吹紫帆さんの講演



矢吹紫帆さん

「10万人と云われあうコンサート」として国内外約500カ所で開催された。2000年に「海の見える音楽ホール」を造るための場所探しを始め、この熊野の地で魂が震え、直感的に移住を決意して熊野市に在住し「音楽ホール」を開設し、音楽活動をしている。

## 命の大切さ学ぶ

### 松本恵三子さん 犯罪で失った命を語る



松本恵三子さん

9月3日、和歌山県警察本部犯罪被害者支援係の協力を得て、命の大切さを学ぶ教室を開催した。講師は和歌山市在住の松本恵三子さん。冒頭、2人の子どもの生い立ち



命の大切さを学ぶ教室

## ラグビー部

現在、部員は3年生3人、2年生8人、1年生6人、マネージャー2人の19人です。本校ラグビー部は、全員が高校からラグビーを始めた生徒ばかりで、もちろんラグビーの経験が浅いという生徒もいます。そのため、練習はパス練習やラグビーの醍醐味(たごい)であるタックルなどの基本的な練習を中心に反復して行っています。



# 2学年の取り組み 「夏休みキャリアアップ計画」



本校2年生は夏休みを利用して、キャリアアップ講座として生徒それぞれの希望に合わせ、職場見学(花王)、オープンスクール参加、インターシシップ、防災・救命講座を実施した。

8月23日に本校キャリアアップ実習室において、男子22人が参加して実施した。午前8時30分からあいさつ、日程説明、諸注意の後、新宮市防災対策課係長の廣井和樹さんと主任の森中輝樹さんを講師に迎えて、「防災講話」地震、津波に備えて」という演題で講演をしていただいた。

### 防災・救命講座

午後からは、新宮市消防本部警防第2班副班長の西村浩二さん、警防第3班副班長の溝口幸男さんの2人で「搬送法」と「応急手当」の講習が行われた。「搬送法」では、担架搬送法、棒と毛布を使って応急担架を作る、担架を用いない搬送法(徒手搬送法)1人、2人、3人を、実習を交え学んだ。

また「応急手当」では、出血時の止血法、けがに対する応急手当(骨折、ねんざ・打ち身、傷、首を痛めている場合)を学んだ。今回の講習は、初めて経験する生徒が多く、「大変だったが、経験できてよかった」「自分のためになった」「人を助ける仕事もいいな」と思ったなどの感想を書いてくれた。

### キャリアアップ講座 学年発表会

夏休み中に行った「キャリアアップ計画」の取り組みの総まとめとして、9月9日6限に学年発表会が行われ、それぞれの部門の発表に生徒は目を傾けた。

2組岡原君、3組田中君、4組前田さんの3人が発表した。そのうち田中君は、夏山組で那智の滝周辺の復旧工事を見学して、「今回のインターシシップで、将来の道

が絞られました。私が住む地域で建設・土木関係の仕事に就き、地域の復興に少しでも役立ちたいという思いが強くなりました。インターシシップで学んだことを、残りの少ない学校生活に十二分に生かしていかようと思います。夏山組さんありがとうございました」と感想を述べた。

オープンキャンパス部門からは、1組田中さん、4組山本君の2名が発表し、山本君は関西保育福祉専門学校に行き「構想書」という母音だけでしゃべって相手に伝える

部門で花王株式会社に行った3組平谷さんは、「職場見学に行ったことで私の考え方が変わり、これから行動に移せることが多くなった」と述べた。

今回は、新宮市、那智勝浦町の20事業所(保育所、飲食店、建設業者、美容室、洋菓子店、スポーツ店、スーパーマーケット、食料品店など)で、2年生47人(男子29人、女子18人)が就業体験をした。1年次の1月に全員が経験したインターシシップを基礎として、さらに2年生で経験を積み、意欲的に就業体験を高めたい生徒が参加した。

部門では、先生方との相談コーナーを体験しました。カリキュラムの特徴やヒアリングのことなどいろいろ教えてくれました。最近ではピアノを弾いていないので、授業で置いていかれるんじゃないかと心配していることを相談すると、初心者でも絶対に弾けるようになるから大丈夫とアドバイスしてくれたので少しほっとしました。今回のオープンキャンパスでいろいろなことを知ることができました。大学生活のことや授業のことなども良い体験になりました。これから、他の短大のオープンキャンパスに参加して比較していきたいです。

このうち、5人の男子が就業体験したスーパーセンターオークワ南紀店では、まずあいさつの仕方から学び、次に食材などの商品

## 登下校指導を実施 育友会役員と合同で

2学期始業式があった8月26日から30日までの5日間、全職員による登下校指導を行った。今回の指導は、学期始めということもあり、育友会役員の方々と連携して部門とJ.R紀伊野駅に立ち寄り、登下校のあいさつやマナーアップのための指導に朝早くからご努力いただいた。

1学期中に生徒の服装・頭髪やマナーについて苦情を受けていたため、夏休み中に「再登校指導」も含めた厳しい指導方法を記した保護者宛ての文書を郵送し、指導の徹底を図っていた。2学期は

